

## 特別連載

## われわれの未来へ（第5回）

小野 晴巳（地球冒険学校準備会顧問）

### はじめに

今、挨拶する最初の言葉はやはりコロナのことでしょう。昔は天気の様子から始まりましたが変われば変わるものです。

今年の夏もおとなしく自宅生活です。がまん我慢の生活。あきらめと政府への怒りでせっかくのお酒も少しもおいしくありません。早く終息して欲しいです。私のワクチン接種は2回終わりましたが、最も大切な働く人や学生を含めた青少年のワクチン接種はこれからです。早く接種をお願いしたい。医療体制の崩壊もさげばれています。この2年間政府は何をしていたのでしょうか。

さて、8月は私の最も重要な月です。現職の時は夏休みとして1年間のなかで一番リフレッシュできる本当に楽しい月でした。退職後は毎日休暇みたいなものですから8月はリフレッシュより考える月になりました。

その理由は8月15日の「終戦記念日」にあります。私は「終戦」より「敗戦記念日」とするほうが戦争を二度としない意識が高まると思っています。

「終戦記念日」前後になるとTV、新聞記事、雑誌、などに戦争特集、戦争関連の単行本がたくさん目につきます。私はこの8月15日「終戦記念日」のTV番組表をチェックしてみました。BSを合わせて10本放映されていました。出来るだけ見てメモを取りましたが残念ながら見残しもありました。

「特攻兵―9回生還した兵士の証言」「開戦秘史―太平洋戦争」「東京大空襲どう伝える」「特攻艇―マルレ」など心に残りました。特に忘れられないのは特攻の番組です。特攻の責任者たる司令官中將がインタビューに答えて「特攻は命令ではない、あくまで志願である」と責任のなさを強調していたことです。特攻隊の生選者は全員「志願を断れない。万が一断れば非国民、弱虫、卑怯者とののしられ生きていられない」と証言しています。志願するように追い込みながら責任をとらない体制がありました。この無責任体制は次のインパール作戦でも明らかです。

私の8月はこのように「戦争」について考える月ですが、皆さんは暑いなかのつらい自粛生活、その中でのオリンピック開催などどのような感想をお持ちなのか本当に聞きたいです。

### 1. 過去―過去から学ぶ難しさ―インパール作戦（2）

年々、戦争体験者が少なくなっています。戦後76年ですから当然です。寂しいです。有名人は戦争の悲惨さを多くの人々に伝え、影響力も大きいだけに特に残念です。今年は半藤一利(12)、なかにし礼(7)、立花隆(5)、益川敏英(5)の4氏。それぞれ有名な方々です。( )の数字は終戦時の年齢です。

4人とも戦争体験、戦後の生活の苦労など書籍で発表しています。積極的に「戦争をしない。

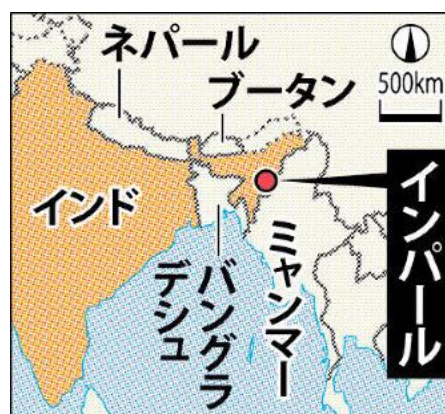
戦争を繰り返さない」を訴えています。

ここでは益川敏英氏を簡単に紹介します。2008年ノーベル物理学賞を受賞。専門は素粒子物理学です。『科学者は戦争でなにをしたか集英社新書 2015刊』によると1945年3月12日の名古屋大空襲の時、自宅屋根を突き破って焼夷弾が落ちてきて目の前の土間にコロコロ転がった。爆発すれば確実に親子3人焼け死ぬ。しかし、それは不発弾で土間に転がったままであった。万が一の出来事で助かったそうです。

それが原点で反戦思想、市民活動、9条科学者の会などの運動につながっていると述べています。「あとがき」にこんな事も書いています。「科学者である前に人間たれ」という恩師である坂田昌一博士の教えを信念として守っています。また「科学者の戦争責任」という言葉は大嫌いとも書いています。これは政治家や軍人たちの責任転嫁に利用されやすい言葉であるからと述べています。この益川氏の考え方を八王子東養護学校の退職した教師の懇親会で話したこともありました。

### ア、インパール作戦の目的-

インパールとはミャンマー国境に接するインド領内にある都市名です。当時のインドは英国の植民地でインパールは日本軍を攻撃する前進基地であり、中国に援助物資、軍備装置などを輸送する拠点でした。中国軍の反撃により長期戦争の泥沼化を強いられていた日本軍はこのルート（援助蒋介石ルート略して援蒋ルートという）を断ち切り、中国軍を早期降伏させようとしていました。



### イ、なぜインパール作戦が史上最悪の作戦といわれるのか？

作戦失敗の原因を私が簡単に分析出来るわけがない。ただ、多くの資料を読んでも次の事項のようです。

- ・ 敵（英、米、中、インド国軍）を甘く見ていた。真珠湾奇襲の成功と同様にミャンマーも簡単に占領できたので、すぐ勝てると錯覚していた。
- ・ 物質（供給）軽視という日本軍の特質が最も具体化した作戦だった。  
インパール作戦に用意した食料、兵器、弾薬などはわずか3週間分。兵士のための米や衣類や輸送など足りないときは敵から奪ったものを利用しろと。これを最も強く主張したのは最高司令官（牟田口中将）だった。
- ・ 補給の見通しが無い。  
峻険な山岳地帯（2～3km級の山並）があり、自動車は使用不可。人力で行うにもあまりに険しい。制空圏は英国にあり日本空軍による補給は出来ない。
- ・ 上意下達がつよく（特に日本軍はひどい）現地状況、情報、意見など聞く耳を持たない。  
たとえば、インパール作戦中に前線の3人の師団長が食料・弾薬不足し、深刻な飢餓に悩まされ戦争続行不可能をそろって訴える。怒った牟田口中将は3人とも解任するという暴挙にで

た。大本営、陸軍大臣も解任黙認する。

- 人情論で作戦許可する。

大本営もこの作戦を検討したが、前述の他、多数の検討もしてとても無理として中止した。(昭和17年の秋、第21号作戦案)にもかかわらず、牟田口中将の強硬論により川辺ビルマ方面軍司令官中将(東条首相と陸大同期で親しく、牟田口中将は部下で可愛いがっていた)や寺内南方軍総司令官元帥の「そこまでいうのならやらせてみようか」の感情論により大本営は前述したような欠陥を知りながら、そして、多数の参謀の反対を押し切りながら作戦を許可する。(昭和19年1月7日発令~7月撤退)この撤退行軍が「白骨街道」「靖国街道」を生み出すことになる。

近代戦争ではありえない、バカバカしさを感じる。

### ウ、牟田口中将はなぜ史上最底の軍司令官といわれるのか？

戦争を遂行し勝利するには冷静な判断力、合理性、科学的根拠、情報力、理解力、公正さ、体力などを備えた極めて優秀な人物でなければならないと私は思っています。

しかしながら、このインパール作戦を強引に進めた牟田口司令官は違うようです。どの資料を読んでも史上最底の評価です。

具体的には

- 3週間の食料しか準備せず足りなければ「ジンギスカン方式」で補給しろ。
- 前線から遠く離れたビルマの軽井沢とよばれたメイヨウに司令部を置き、連日豪遊しつつ指令を出していた。
- 戦線停滞の責任を師団長になすりつけた。3人の師団長を解任させた事件。
- 自身の無責任さ

作戦失敗の責任を全く認めず、自責の念もなく、参謀本部に逃げかえり、陸軍士官予科学学校長で終戦を迎え、戦後も自身のインパール作戦を弁護し正しさを訴え続けた。(性格、出世欲等多数指摘されていましたが省略)

### エ、無謀なインパール作戦の結果

戦死者よりも餓死者の人数がはるかに多く「白骨街道」とよばれるほど悲惨な結果を生んだ。命をまったく軽視した戦争のための最悪の戦争でした。

### オ、インパール作戦から学ぶもの

史上最底・最悪作戦を2度と起こさないようにするには原因を把握し現代に当てはめて阻止することです。

参考文献『太平洋戦争陸戦概史(岩波1951刊)』『インパールの戦い(文春新書2021刊)』『知識ゼロからの太平洋戦争(幻冬舎2009刊)』他多数

## 2、現在の息苦しさーオリンピック開催から

皆様は緊急事態宣言中に開催されたオリンピックをどのような気持ちで見えてましたか？パラリンピックはどうでしたか？私はオリンピックに関心はなく開会式もはじめだけで寝てしまいました。結果だけ見ました。パラリンピックの時は見る種目は決まってなく、毎日その時の気分で選んでいました。印象に残ったのはボッチャ、陸上競技、柔道、車いすバスケット、国別では日本選手は当然としてブラジルの選手でした。

パラリンピックのように障害別で競技するのを見てみるとオリンピックと別々に開催しないで同じ会場、同日にし、工夫すれば同時開催可能と考えました。それこそ「共生」「多様性」です。オリンピック開催は憲章・理念に反して史上初めての無観客でした。

「無観客」開催を学校の行事に例えてみました。

グラウンドでは運動会を開催しているのに、生徒は教室でテレビ鑑賞をして運動会をしているようなものです。生徒・保護者（国民）は運動会を猛反対しているのに学校（政府・組織委員会など）が強行したようになります。当然議論沸騰。いくら学校が説明しても収まらないでしょう。でも運動会は強行されました。結果としてメダル獲得数は史上最多でメダタシメダタシ、学校・生徒も結果よければすべてよしで終わりました。

しかし、東京五輪はしっかり問題点について反省・総括し次に生かすことが必要です。将来の日本のために「人の噂も七十五日」にならないようお願いします。

## 3. 未来の希望は教育からーAIについて（2）

年齢を重ねると興味・関心が変わりました。その一つにスポーツがあります。昔は野球（川上、金田、長崎、王、、など）相撲（栃若、柏嶋、貴乃花、など）オリンピック（夏冬）など夢中でした。サッカー、ラグビーなどは私の時代はマイナーでした。好きな選手の成績をノートに記録しました。それが今では結果を見るだけになりました。実況放送は特にダメです。勝ち負けを想像するだけで心理的、精神的に疲れてしまいます。

たとえば、この原稿でも過去・現在と書いていると極端ですがユウウツになります。で、明るく未来になる方法をいろいろ考えてみると我田引水かもしれませんが教育になりました。

おそらく教育というと大部分の人は学校・授業・進学・就職・成績・担任・保護者などに関することだと思います。さらに、時により事故・自然災害・環境・コロナなども加味されます。教育についてはどんな人でも持論があり全て正しい意見をお持ちです（極論は除く）。したがって、教育に関しては誰でも自由に話せます。本当は教育について話すときは内容を整理する必要があるのですがふつうの場合そんなことはしません。子供の教育について自由に自分の考えを話します。それが教育に関する良い点ですね。ただ欠点は一致しにくく強い人に流されてしまうことでしょうか。

さて、8月14日（土）元文科省事務次官前川喜平氏の講演会がありました。タイトルは『あったことをなかったことにはできない！』でした。この講演会は昨年に企画されて以来コロナで3回も延期されてやっと実現しました。話の内容は官僚トップとして、国の文部行政と政治の関わ

りを踏まえて現在の状況、将来の見通しを事実に基づいての講演でした。

森友・加計学園、桜を見る会について、内部から見た審議会・委員会・答申書の提出、異例の面会の仕方、予算額などすべてにルール違反で実施され考えられない手法を使い、報道された問題点は全てあったことと話されました。

人事権を政治家に握られているので官僚は手も足も出ず政治家のありのままに動きながら、忖度し、顔色をみている。国家のため、日本のありかたなどを考える高尚な理想論は影を潜めていると。

このことは現職の教師も似ているかもしれません。昔と比べて子どもに関する理想論や教育観はほとんど議論されず、話せず、日課や書類作成に迫りかけられています。ブラック企業化していると指摘されています。これでは日本の将来が心配です。

9月1日デジタル庁が発足しました。デジタル化順位世界29番目、先進国から周回おくれの日本を早く改善して欲しい。

IT・AI化が進めば、学校はコロナのような災害時のオンライン授業はもっとスムーズになるでしょう。登校日も週2～3日になり、重い教科書から解放され、個別の進度レベルにあわせた学習、瞬時にできる調べ物、提出物、国際情報、語学学習など各段に便利になるでしょう。他にも書ききれないほどあります。

これらをまとめて「GIGAスクール構想」と呼ばれています。予算、人的援助を早急に交付し早く実現してください。

もちろん、実現するには家庭負担・教師負担など課題はたくさんあります。メリット、デメリットもあります。それでも諸問題を解決し日本の明るい未来を築くことが必要です。

#### 4、今回の締めくくり

戦争の無反省、命にかかわるコロナの混乱、オリンピック開催の是非、など考えると日本が抱える病巣は今始まったのではなく、昔からある日本人特有の性格、特質、精神、倫理観、地域差、男女観など複雑に絡まったところに由来するのではないかと思うようになりました。そうすると「いじめ」「差別」などの身近な諸問題はなかなか解消できず難しいことになります。しかしながら、私は教育こそこれらを解決できるただ一つの道と信じます。